

分類 番号	A8	取組 名称	絶滅したと考えられた京都固有在来ブドウ品種‘聚楽’の復活と新たな利用方法の確立
研究代表者所属・職名：		生命環境科学研究科・教授	氏名： 板井 章浩
研究担当者： 京都府立大学（板井章浩、森本拓也） 外部分担者・京都府農林水産技術センター農林センター丹後農業研究所 （久木崎孝弘主任研究員、荻野一郎副主査）			
主な連携機関（所在市町村、機関（部署）名） 京都府農林水産技術センター・農林センター・丹後農業研究所			
【研究活動の要約】			
<p>高台寺近くの民家の庭先で 100 年生に近いブドウ樹が発見され、このブドウは、京都において安土桃山時代から栽培の記録があり、昭和になって絶滅した‘聚楽’ブドウまたはその子孫である可能性がある。本研究では、この‘聚楽’そのものまたは子孫の可能性のあるブドウの栽培、これを育種親に用いた新たな府独自ブドウ品種聚楽シリーズの育成を行い、京果樹のブランディングを図っていくことを目的とする。</p> <p>今年度その中で、‘甲州’および‘聚楽’のゲノムデータの取得を行い、公開されているヨーロッパ種（<i>Vitis vinifera</i>）を中心とした世界のブドウ30品種とのゲノム解析も行った。また、母樹の葉から RNA を抽出し、ウイルスに罹病しているか調査を行った。</p>			
【研究活動の成果】			
<p>1) 次世代ゲノムシーケンサーにより、‘甲州’および‘聚楽’のゲノムデータの取得を行い、公開されている世界のブドウ 30 品種との DNA 解析も行い、日本古来の‘甲州’ブドウと近縁ではあるが、異なる品種であること、ヨーロッパブドウの中でも独自のグループを形成する貴重な素材であることを明らかにした。</p> <p>2) 母樹の葉から RNA を抽出し、ウイルス検定を行ったところ、いくつかのウイルスに罹病していることが明らかとなった。それらは、ブドウリーフウイルス等カイガラムシを媒介とするウイルスであった。100 年にわたる無農薬栽培において感染したものとのおもわれ、今後ウイルスフリー化に取り組む必要がある。</p>			
【研究成果の還元】			
<p>1. R1.8.21 京都府生物資源研究センター 市民約 50 名 「生物資源研究センター施設公開ミニセミナー」</p> <p>2. R1.10.1 京都府立歴史館 市民約 50 名 「ACTR ポケットセミナー」</p> <p>3. R1.11.26 朝日新聞京都版 ブドウ品種「聚楽」復活を 府立大やワイン会社</p>			
【お問い合わせ先】		生命環境科学研究科 資源植物学研究室 教授 板井 章浩	
		Tel: 0774-93-3253	E-mail: itai@kpu.ac.jp

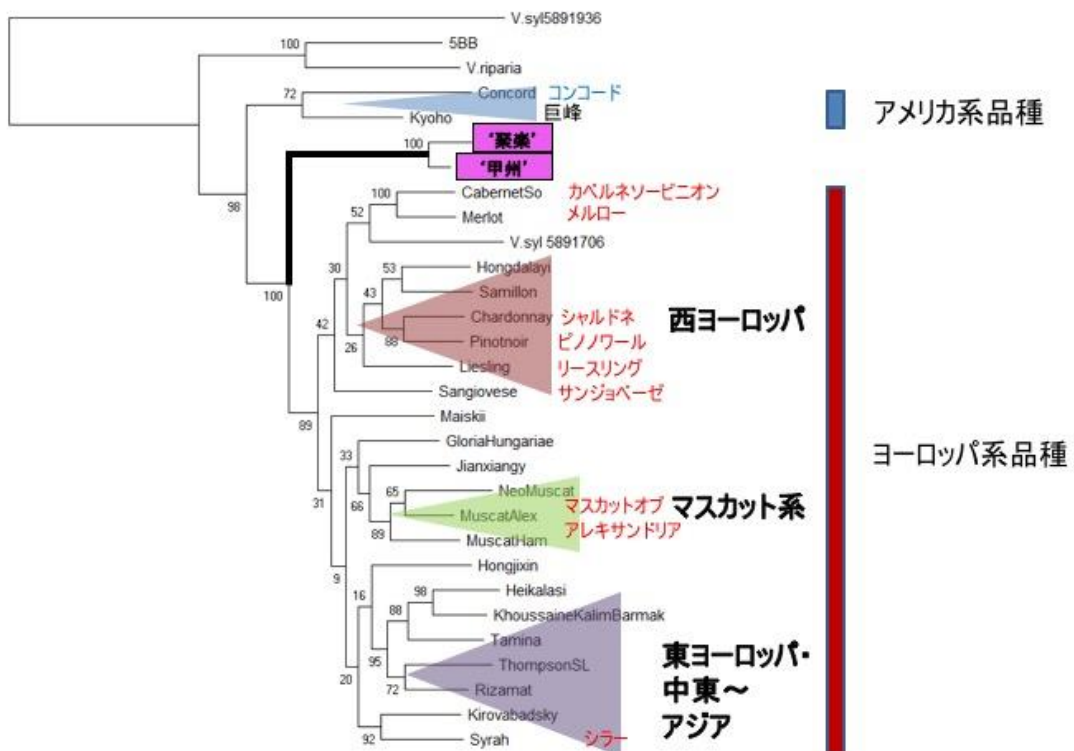
参考 (イメージ図、活動写真等)

ゲノム情報を用いた世界各地のブドウ品種の系統解析



供試材料: 30品種・系統

西ヨーロッパ系, 東ヨーロッパ系, アジア系, アメリカ系



ゲノム情報を用いた世界各地のブドウ品種の系統解析結果